

TransPrime Newsletter

Vol. 2 (April 2014)

株式会社トランスプライム

発行責任者 倉増 一

目次

1. 語源散策(2) magazine
2. 似たもの同士(2) rate と ratio
3. PCT 出願における直訳の範囲(2) 翻訳とは？
4. 翻訳者に必要な資質(2) 納期厳守
5. 当業者が殺された？
6. トランスプライム主催のセミナーのご案内
7. 翻訳サービスのご案内
8. 編集後記

語源散策(2) magazine

特許翻訳者の語彙力向上のために、単語を語源から探り、理解を深めることを目的としたこのコーナー、今回は”magazine”を取り上げます。

現在では「雑誌」の意味で使用されることが多い”magazine”ですが、皆さんはこの単語の語源をご存知ですか。実はこの単語の語源は「倉庫」を意味するアラビア語、*makhzan* (マフザン) なのだそうです。英語でも最初は「弾倉」や「火薬庫」など、武器の「倉庫」の意味で使われていましたが、兵器の在庫リストを定期的に発行する際に、そのリストを *magazine* と呼んだのが、後に転じて「雑誌」となったようです。また、「小さなものを一箇所に貯めておくところ」の概念から派生して、「さまざまな情報の貯蔵所」つまり「雑誌」の意味として使用されるようになった、という説もあります。ちなみに、初めて「magazine」の語を使用

したのは 1731 年にロンドンで創刊された『ジェントルマンズ・マガジン』(The Gentleman's Magazine) とのことです。最新的话题を取り上げたいいくつかの短いコーナーからなるニュース番組を”newsmagazine”と呼んだりもしますよね。

とは言え、特許英語で”magazine”が「雑誌」の意味で使用されることは意外に少ないかも知れません。あるとき、以下のような翻訳に遭遇しました。

【例 2】 この方法は、前述の構造を形成するために、**雑誌**から供給されるその連続的なブランクをエンボス加工ステーションに供給すること、および、紙巻きタバコを充填するパックを形成するために、エンボス加工されたブランクを紙巻きタバコ包装機に供給することをさらに含んでも良い。

【原文】 The method may include feeding successive ones of the blank from a **magazine** thereof to an embossing station to form said formations, and feeding the embossed blanks to a cigarette packaging machine to be formed into packs filled with cigarettes.

いうまでもなく、「雑誌」は誤訳です。カタカナ語の「マガジン」の意味を知っていればこの誤訳は防げたはずです。こ

こでは、「マガジン」よりは「容器」の方が分かりやすいでしょう。

いずれにせよ、翻訳では辞書を丹念に読み、場合によっては語源を理解することが精度の高い翻訳につながるということが端的に分かる一例と言えるでしょう。そういった意味で、特許翻訳者は「知識の倉庫」つまり「マガジン」であることを目標としなければなりませんね。(桑田美穂、倉増 一)

参考文献：アラブイスラーム学院 URL <http://www.aii-t.org/magazine/index.html> ほか

似たもの同士(2) rate と ratio

rate と ratio の違い

これらはどちらも辞書を引くと「割合」や「率」という訳語があてられており混乱を起ししやすい単語です。以下に違いを挙げます。

rate	ratio
<ul style="list-style-type: none"> ・ 速さや頻度を表す。 ・ a/b で表すと、a と b とは異なる次元の量である。 (例えば、速さは[距離/時間]、頻度は[回数/時間])	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの物の関係を数や量で表す。 ・ a:b で表すと a と b は同じ次元の量である。 (例えば、一つの部屋に10人の男子と30人の女子がいる場合、男女の比は1:3となる。男子の数と女子の数はどちらも「人数」という同じ次元の数である)

rate の使用例①

【原文】 One way of achieving this according to some embodiments is to apply frequency dithering to the selected clock signal, where frequency dithering refers to varying the frequency of the clock signal over a defined range at a given **rate**.

(WO2011014178)

【公報訳】 いくつかの実施形態に関してこれを達成する1つの方法は、周波数ディザリングを選択されたクロック信号に適用することである。ここで、周波数ディザリングは、所定の範囲にわたってクロック信号の周波数を所与の**比率**で変化

させることである。【特表 2013-501263 (改)】

rate の使用例②

【原文】 In this approach, we make the disk-transfer **rate** proportional to disk size. (WO2010141535)

【公報訳】 この方法では、ディスク転送**速度**をディスク・サイズに比例するようにする。【特表 2012-529234】

ratio の使用例

【原文】 The method of claim 4, wherein the overwrite **ratio** is the **ratio** of the number of overwrites that the memory

block receives to the number of writes that the memory block receives. (WO2011071818)

【公報訳】前記上書き比は、前記メモリブロックが受信する書込みの数に対する前記メモリブロックが受信する上書きの数の比である請求項4に記載の方法。【特表 2013-513186 (改)】

【解説】ここでの「比」は、[上書きの数：書込みの数]であり、回数という同じ次元のものを比べているので、原文が ratio となっているのは納得がいきます。

また、rate・ratio と一緒に混同されやすい単語として proportion (割合、比率) と percentage(百分率)があります。

proportion の使用例

【原文】In a preferred embodiment, in step a), the proportion of solvent per gram of solute is from 15 to 50 ml. (WO2012007487)

【公報訳】好ましい一実施形態において、ステップ a) で、溶質 1 グラム当たりの

溶媒の割合は、15から50mlまでである。【特表 2013-531021 (改)】

【解説】日本語では、この「割合」に相当する語として「比率」もよく使用されています。

percentage の使用例

【原文】As such, the resistor divider sub-circuit 406 sets the voltage at the negative input of the comparator 404 to be equal to a predetermined percentage of the voltage provided by the voltage source 402. (WO2011014157)

【公報訳】従って、抵抗分割器副回路406は、比較器404の負の入力における電圧を、電圧源402から提供される電圧の所定の割合に等しくなるようにセットする。【特表 2013-500182(改)】

<引用文献>

- ・ Collins COBUILD Dictionary
- ・ 兵藤申一 (1986) 科学英文技法 東京大学出版会

(南崎友美、倉増一)

PCT 出願における直訳の範囲(2) 翻訳とは？

翻訳者からあがってくる翻訳をチェックしていて気付くことは、直訳か否か以前に原語の文字を翻訳語の文字に移し替えた翻訳が実に多いということです。勿論、それでも翻訳語として意味の通じる部分はあるのですが、大事なところではたいてい意味が通じないか、仮に通じても原語とは異なる意味になっていることがよく見受けられます。そこで、今一度翻訳とはいかなる作業であるかを皆様と一緒に考えたいと思います。

私が考えるに、翻訳というのは単なる言葉の置き換えではなく、実に複雑な思考過程を経て得られる産物であるということです。一言で言えば、翻訳は言語と翻訳語間の文化の違いを埋める(bridging culture gap)作業であるということです。

つまり、原語と翻訳語の間には、文の構造、文法、用語の定義などどれ一つとして同じものはないわけですから、原語が透けて見えるような翻訳自体は文化の違いは埋まっていないと言って差し支えないでしょう。時々耳にするのは、原語と翻訳語が1対1の対応関係にないとチェックがしにくいという話です。

具体的に文化の違いを埋める作業について説明します。まず、原語になくて翻訳語に必須の概念を作り出す(creation)作業があります。典型的なのは日英翻訳における数と冠詞を決める作業です。この2つの概念は日本語では希薄(全くないわけではないのですが)なので、数を決めて適正な冠詞を付ける作業は翻訳者にとって最も厄介であり重要な仕事です。

次に、原語にあって翻訳語にない概念を除く (elimination) 作業があります。英日翻訳では英文の持つ数と冠詞の意味は通常は無視されます。日英翻訳における elimination は文頭の接続語句(しかしながら、従ってなど) です。日本語の文には必ずと言っていいほどの接続語句が文頭に置かれますが、これを全部訳すと英文の繋がりがかえっておかしくなることがよくあります。技術的にも論理的にも意味をなさない接続語句は訳さない方がよいのです。

3つ目に原語と翻訳語の構造の違いを整理する(rearrangement)作業です。言語の構造を維持することに目を向けるのではなく、翻訳語として読みやすい構造を探し出す作業です。典型的なのが英語の無生物主語です。この概念は日本語にはないため、直訳した日本語はごちないものになります。日英翻訳では無生物主語の活用で、簡潔な英文になります。

これらの作業を頭に入れつつ、最後に個々の語句の置き換え作業(replacement of terms)に入ります。ここでも単に用語集をあてはめるのではなく、パラレリズムや語句の間のバランスに気を配る細心の注意を払う必要があります。

今まで述べたことを整理すると、翻訳は次のような方程式で表すことができます。

translation = bridging culture gap = (creation+ elimination+ rearrangement) + replacement of terms.

翻訳者は、翻訳に行き詰まったときにこの方程式で何を解決すべきかを判断することで打開策が生まれると信じています。

各作業の具体例については次号以降に順次紹介いたします。

(続く。倉増 一)

翻訳者に必要な資質(2) 納期厳守

今回から翻訳者に求められる資質を具体的に説明します。

翻訳品質もさることながら、納期がきちんと守れない翻訳者はフリーランスとしての資格にかけていると言わざるを得ません。翻訳会社に勤務していたときに分かったことは、統計的には納期を守れない翻訳者の品質はムラがあるということです。恐らく、ぎりぎりの仕事の仕方が続いていて最後に慌てて仕事をする、というやり方が定着していてそのような結果になっているのかもしれませんが。

私自身の経験では、緊急案件を別にすれば、一般に依頼主の希望納期ぎりぎりにしか翻訳を終わらせられないということはそう多くありません。当たり前のことですが、たいていは自分の翻訳仕上がり予定日が先に来ます。そのような場合は、1日おいて頭を冷やして読み直してから、希望納期より先に納品してしまし

た。そうすることで、次のチェック工程の人たちの作業にも余裕が生まれるからです。仕事に余裕があるとそこから出てくる結果もよくなります。

納期ぎりぎりに仕上げてくる人には、仕事にかかるタイミングが遅いという共通の特徴があります。これは性格的な問題かも知れません。サラリーマン時代の経験から、どのような仕事であっても取りかかりの遅い人、納期を守れない人はよい結果を残さないと言えます。逆に、少しでも早めに作業を進めておくと、自分自身の体調や不可抗力による仕事の中断も吸収することができます。

優秀な翻訳者は全体に納期もきちんと守ってくれます。納期は仕事の受・委託における基本的な契約事項です。納期にルーズな翻訳者はこの機会に自分の翻訳スタイルを見直してみませんか？

(続く。倉増 一)

当業者が殺された？

While there has been shown and described what is at present considered the preferred embodiments of the present invention, it will be apparent to those **killed** in the art that various changes and modifications may be made therein without departing from the spirit and scope of the present invention which shall be limited only by the appended claims.

これは実際に公開されているPCT出願の明細書から拾ってきたものです。「当業者」が「この技術分野で殺された人」になってしまいました。この **typographical error** はいくつか存在します。偶然とは言え、笑えないミスですね。ところで、翻訳会社に勤務していたときの採用試験の解答で **those skilled in the art** を「**芸術**に秀でた人たち」と訳した人がいました。勿論、この人は不合格です。「技術」と訳していて、他の部分も論旨のしっかりした翻訳初心者なら許したのですが。こういう人は、**magazine** のところで「雑誌」と翻訳してしまう可能性があります。翻訳のセンスはなんでもないのでよくわかるという端的な例です。たった一字の違いが運命の分かれ道です。皆さんはくれぐれもこういうミスのないように注意してください。

トランスプライム主催のセミナーのご案内

近日開催予定のセミナーは以下の通りです。

2014年5月23日（金） 特許英語マスターシリーズ名詞編 @大阪

2014年5月24日（土） 特許日英翻訳のよくある間違い @大阪

2014年6月21日（土） 特許日英翻訳のよくある間違い @東京

今回初めて開催する「特許日英翻訳のよくある間違い」は、特許翻訳で頻繁に見られる誤訳や不適切な訳の見つけ方と修正の仕方を体系的にまとめたものです。

日本語課題ごとに、原訳（よくある間違い例）、日本語の問題点、原訳の問題点、修正のポイント、修正訳例、参考情報が要領よくまとめられています。

翻訳者はもちろんのこと、特許事務所・翻訳会社・企業などで英文チェックをする方や明細書を作成する方にとっても有益な情報が満載されています。

この機会に是非受講ください。

その他のセミナーや詳細は弊社ホームページをご覧ください。

(<http://transprime.co.jp/seminar.html>)

まだ受付を開始していないものもございますが、随時更新して参ります。

翻訳サービスのご案内

化学（含むバイオ）・機械・電気の全技術分野に対応しております。翻訳の質には絶対的な自信を持っております。これまでの翻訳に満足されない方は是非当社の翻訳サービスをご利用ください。

編集後記

TransPrime Newsletter の第 2 号をお届けします。当初予定より大幅に遅れて申し訳ありません。社内体制を整備して早く定期刊行にこぎつけけるようにいたします。内容についてご希望・ご意見がありましたら info@transprime.co.jp まで、ご連絡くださるようお願いいたします。

バックナンバーは当社 HP (<http://transprime.co.jp/newsletter.html>) からご覧になれます。バックナンバーのメール送付を希望される方はご連絡下さい。